

# 月刊 セキュリティ研究

**国民保護体制への取組み** 総務省 消防庁国民保護運用室長 **大森丈義**

危機管理  
体制

埼玉県 危機管理防災部 危機管理課  
千葉県 総務部 消防地震防災課

特集

## 危機管理産業の新潮流

信和エンジニアリング 松下電工 タムロン 応用地質  
ドッドウエル ビー・エム・エス 三菱電機 日本カバ  
松下電器産業 東芝 アクシスコミュニケーションズ  
アクチャーニ 三菱電機インフォメーションテクノロジー

# 10

2005

Security  
Specialist  
Association

Info

NPO法人 NBCR対策推進機構  
American Society for Industrial Security  
電子商取引安全技術研究組合  
NPO法人 日本情報安全管理協会  
日本消費者連盟 食の安全・監視市民委員会  
NPO法人 国際情報安全保障研究所  
社団法人 コンピュータソフトウェア著作権協会

連載

愛しのアクセスコントロール  
SECURITY UPDATE  
ニーモニクNEWS

巻末  
特集

セキュリティ業界有力企業一覧

# 安心と安全のマーク 「JILCoM」

日本情報安全管理協会  
業務企画課長

剣木 博文

## 情報化社会の安心と安全

個人情報保護法が完全施行され社会の関心事はいかに個人情報を防衛していくかに向けられている。しかしながら、そのような社会が形成されつつある一方で個人レベルでは個人情報の漏洩に対してきちんと対策がとられているとは言えない。

情報セキュリティに関する指標として、BS7799の日本版として誕生したISMS適合評価制度やプライバシーマーク(Pマーク)または、ベリサインなど企業に対しての取り組みとして、運用されている。現在では社会的にもだいたい認知され始め、セキュリティの認識がますます高まってきているように思える。しかし、これらの取り組みも一般の人が生活の中でそれらの指標を意識して、つまりセキュリティを意識しているかという点決してそうではない。いわゆる個人情報(個人を特定できる情報)の他にも、大事な生活情報はプライバシーの中にはたくさん存在している。例えば家族構成、不在予定情報、ID、パスワード、趣味・嗜好、勤務先情報などがそれである。これらの情報が原因で、空き巣、ストーカー、振り込め詐欺、なりすましなど犯罪が引き起こされる可能性が非常に高い。現在こういった個人の生活情報に関しては軽視されがちであるが、こういった情報のセキュリティを行う感覚こそが、情報化社会で必ず持たなければならないセキュリティの意識なのである。

我々はこれらの感覚を日本国民が意識し、よりグローバルスタンダードな情報セキュリティの社会を目指すべく、啓蒙・啓発活動を展開している。可能な限りわかりやすく情報漏洩のリスクを訴え、現在の自分自身で出来る情報セキュリティ対策を呼び掛けている。

## 2005年1月19日

これをご覧の皆さんもまだ記憶に新しいと思うが、

今年はじめ、ゴルフ場を舞台にしてスキミング(カードの情報だけを抜き取り、偽造カードを作り不正使用する犯罪)の犯罪集団が一斉摘発された。犯罪自体はゴルフ場という比較的富裕層が集まる場所を狙った一方で、カード所有者の意識の低さ(大事なカードの暗証番号とロッカーの暗証番号と同じにしている人が多かった)が付け狙われたものであった。

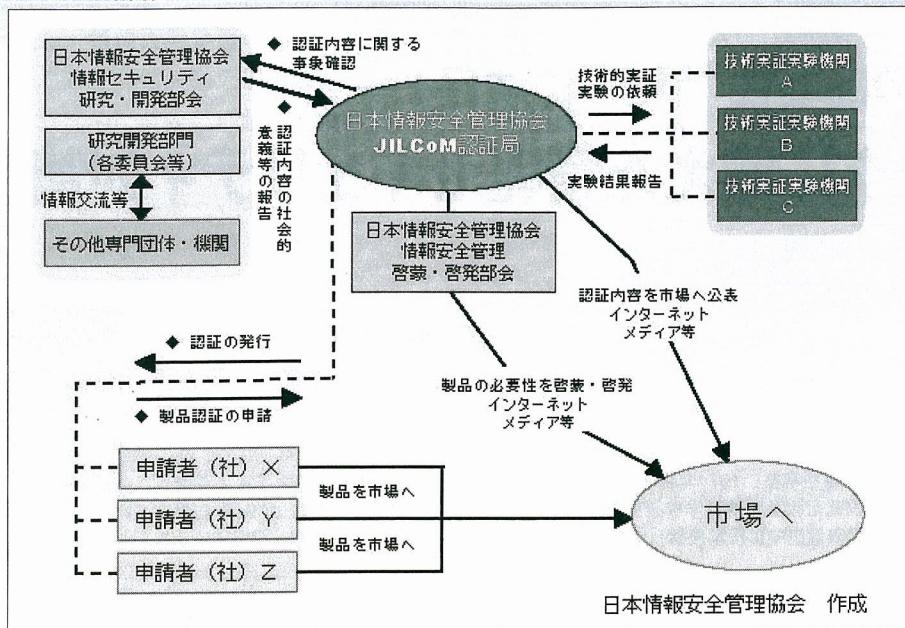
2004年7月にすでにスキミング対策委員会を立ち上げ、インターネットやメディアを通じて啓蒙・啓発活動を行っていた我々はその日を境に、毎日のようにメディアや消費者からの対応に追われる事となる。その中で我々がメディアへ特に説明したかったのは犯罪の手口や銀行の責任追及よりはむしろ、カード使用者の意識の改革であった。事件が起きてすぐに当協会佐藤専務理事・事務局長は「カード発行者にも責任はあるが、それよりも大事なのは自分自身でカードを守るという心構えである。」とメディアに向けて発している。カード所有者がカードのリスクに関してどの様にそのリスクを回避していくかに重点をおいて、啓蒙活動を続けた。

そのような中たくさんスキミング対策製品が市場に出始めた。それらはまさに犯罪に便乗した形での商法のように感じさせるものさえあった。

## JILCoM認証局の開設へ

冒頭に述べたように、消費者に目に見えてわかる情報セキュリティの指標は数少ない。その中で我々のようなNPO法人が市民団体としての役割を担う為に、2005年6月に日本情報安全管理協会は「情報セキュリティ対策製品認証制度」を発表した。「市民生活の安心と安全」「企業活動の安心と安全」を目指すべく、時代のニーズに合った情報セキュリティ対策製品を第三者機関として社会に対して正しくかつ、わかりやすく説明していく事によって、消費者に安心

### JILCoM 情報セキュリティ対策製品認証の仕組み



と安全の生活を送っていただくことを目的とした認証制度を実施する事とした。

認証された製品には「JILCoM」のマークが付与され、さらにホームページにおいて、製品の説明、技術内容等が閲覧できるという仕組みである。消費者が本当に目の前にある情報セキュリティ商品は良いものなのかどうか、が確かめられることとなる。

これらの仕組みは顧客第一主義の視点から市場のニーズと考え、今年度は電波による情報漏洩に関する製品に対して取り組む事となった。今後は、様々なモノへの応用が考えられ、市民生活の中での、情報安全のマークとして、社会に浸透していくことを目標としている。

### JILCoM情報セキュリティ対策製品 第1号

JILCoM認証制度においてICカード（キャッシュカード、クレジットカード）を電波による脆弱性から守ることを目的として、電波シールド特殊素材を使用した財布が第1号製品として認証された。認証制度の仕組みのとおり、外部にある実証実験機関（第三者機関）で、電磁波シールドのテストが何度も行われ、そ

の信頼性が検証され認証されている。

財布と情報セキュリティとは、従来ではなかなか結びつかないと思われるかもしれないが、それは大きな誤りである。スキミングがカードの情報を抜き取る犯罪であるということは、やはりカード情報を守る為のセキュリティ対策がなされるべきである。

このような社会的に必要とされている情報セキュリティ対策製品に対し、今後も日本情報安全管理協会では認証を行っていく予定である。また、「JILCoM」のマークが市民生活の安心を目指した分かりやすい情報セキュリティの指標になるよう活動を展開していく。



本コーナーのお問い合わせは

特定非営利活動法人 日本情報安全管理協会 事務局  
 TEL 03-5765-7677 URL: <http://www.jilcom.or.jp>  
 ※スキミングについて…<http://www.jilcom.or.jp/skimmingreport2005.html>  
 ※認証について…<http://www.jilcom.or.jp/certification.htm>